七座山と米代川

天然秋田スギが見られる七座山（ななくらやま）

「七座山（ななくらやま）」は、仁鮒水沢の保護林と同じく、藩政時代には、藩が直接経営する「御直山（おじきやま）」となっていました。

米代川が大きく蛇行してこの山を囲んでおり、天然秋田スギとブナ、ミズナラ、イタヤカエデなどの混交林となっています。

「七座山自然観察教育林」に指定されて歩道が整備されており、最短コースを歩くと展望台まで約20分間で到達できます。

八郎太郎伝説

雄大を誇る米代川も、七つの峰がスクラムを組むこの地を突き破って直進することができず、ここで大きく湾曲して流れています。

この地をせき止め、住居とした、巨大な竜である八郎太郎の伝説が残されています。

問い合わせ／能代市観光振興課　TEL 0185-89-2179
米代西部森林管理署　TEL 0185-54-5511

仁鮒水沢スギ植物群落保護林

周辺ガイド

保護林の概況
仁鮒水沢スギ植物群落保護林とは
位置・なりたち・スギの特色・歴史

仁鮒水沢スギ植物群落保護林とは

〈ごあんない〉
JR二ツ井駅から車で約20km、25分です。入口の100m手前に、無料駐車場とお手洗いがあります。

代表的な天然秋田スギ林

- この仁鮒水沢の保護林は、木曽ヒノキや青森ヒバとともに、日本三大美林といわれる天然秋田スギの代表的な森林です。
  昭和22年に保護林に指定され、現在まで大切に保護されています。

天然秋田スギ林のなりたち

- 「仁鮒水沢スギ植物群落保護林」を含む仁鮒一帯の国有林は、江戸時代、藩の経営する「御直山（おじきやま）」に属していました。
  天然秋田スギは、藩財政における貴重な財源で、藩では「留山制度（とめやませいど）」によるスギの伐採制限や植林、さらに天然更新したスギの稚幼樹の保育などを行いました。
  天然秋田スギ林は、人々が守り育てることでできあがった美林と言えます。

スギの特色

- スギは、日本特有の樹種で、その名は「直木－スグキ」から由来したといわれるように、真っすぐで大きな木に育ち、また、その材は軽いわりに強く、耐久性に優れています。
  このため、林業用の造林樹種として全国で最も多く植栽されています。

天然秋田スギ

- 天然秋田スギは、スギの品種の一つで、枝が細く、老齢になっても成長を持続するとともに、その材は、木目が細かくそろい、心材は優美な淡紅色であるという特色があります。
- 秋田県の米代川流域で生産される天然秋田スギ材は、その優れた材質が賞賛され、昭和30年代をピークに全国に供給されました。

森林鉄道による木材の搬出

手のこによる伐採（昭和30年頃）

森林鉄道による木材輸送　（株）くどうはじめ材木店より

米代川の筏流し

- 明治から昭和44年まで木材の輸送には、森林鉄道が利用されました。
- 現在の仁鮒から保護林に至る川沿いの道路は、森林鉄道の軌道敷を利用して作設されたものです。

筏流しによる木材の搬出

- 集められた丸太は、巨大な筏に組まれ、米代川を利用して能代まで運ばれました。
  昭和39年を最後にすべてトラック輸送に切り替えられましたが、米代川の筏流しは、町の風物詩でした。
- 内川が米代川に注ぐ付近には丸太を川に転がすための石畳が残り、当時を偲ばせます。

保護林の概況

▲きみまち杉

[駐車場～きみまち杉]
距　　離／約800m
所要時間／片道約15分
※足元が滑りやすいのでご注意下さい。

保護林の概況

- 保護林内には、日本一の天然秋田スギである、「きみまち杉」（樹高58m、胸高直径164cm）をはじめ、樹高50mを超える天然秋田スギが林立し、林齢250年（180～300年程度）に至った現在でも盛んに成長を続けています。
- 林内（18.46ha）には、歩道が整備されており、１周を約30分で散策できます。途中には、平成3年の台風による被害木を利用したスギの輪切りのテーブルとイスが置かれている休憩所があります。

森の香り

森のなかを歩いていると、かすかに森の香りがします。これは、樹木が発散する「フィトンチッド」という揮発性物質の香りによるものです。
スギ材の香りには鎮静作用があることが知られています。

学術調査の実施

東北森林管理局では、保護林内のすべてのスギについて成長経過を継続的に把握することにより、学術研究に役立てていくこととしています。
また、大学などの研究の場としても大いに利用されています。

次代を残すための生存競争

- 林内には、スギ以外に、トチノキ、ミズナラ、ブナ、イタヤカエデ、ホオノキなどの広葉樹がみられます。
- 自分では動けない植物は、機会をうかがい、風や動物の手も借りながら、跡継ぎを残そうとしています。

スギの枝から根付いた木

スギは、種を風にのせて散布するほか、多雪地域では、雪の重みで地面に触れた枝に根をつけ、別の独立した木とする方法で跡継ぎを作っています。

トチノキ

トチノキ、ミズナラは、貯蔵がきき、栄養価が高い大型の種子をつけ、リスや野ねずみを引きつけます。冬や春の食料として埋められ、食べ残された種子は、親木から離れた箇所で芽ぶきます。

イタヤカエデ

イタヤカエデは、種にプロペラのような翼をつけ、風にのせて遠くまで種を運びます。

ホオノキ

ホオノキは、見つけやすい赤い色の果肉をつけた実で鳥を引き寄せ、消化されない種を遠くに運んでもらいます。

樹木の世代交代のチャンス

ササが繁茂している地面には、光が届かず、樹木は、発芽してもなかなか大きくなれません。
しかしながら、このササは、数十年から100年に一度くらい、大面積で開花結実し、その後一斉に枯死するという性質があります。
また、台風などで、上木が倒れると、地面に光が多く当たるようになります。
これらは、数少ないようにみえますが、樹木の何百年以上という寿命を考えると一生の間に何回も起きる世代交代のチャンスなのです。

木材の利用・地球温暖化防止と森林

木材の利用

- 天然秋田スギ材は、木目が細かく揃い、心材は優美な淡紅色といった特色があります。

このため、その美しい材質を存分に活かした、天井板などの内装材や伝統工芸品である桶・樽などに利用されています。

- 天然秋田スギや植栽苗による秋田スギの製品は、能代市二ツ井町庁舎、伝承ホールなどで間近に見ることが出来ます。

▲能代市二ツ井町庁舎の内装に使われている天然秋田スギ

▲体育館に使われている大断面集成材

太い木材は火災に強い

体育館などの構造材として太い柱や梁が使われています。

これは、太い木材になると、表面が燃えても、炭化した層が熱と空気を遮断し、内部までは燃えにくいことが認められているためです。

健康で快適な住空間の提供

ストレスやシックハウスによる健康問題が顕在化するなかで、人の健康や心理面に良い素材として木材が見直されてきています。

地球温暖化防止と森林

- 石油や石炭を大量に消費する中で生じた二酸化炭素は、気温を保つ効果が高く、その増加は異常気象などを引き起こす地球温暖化に大きな影響を与えています。

森林は、空気中の二酸化炭素を吸収し、光合成により、取り入れた炭素を樹木を形作る木材に合成します。

森林を健全な形で整備するとともに、木材を住宅や家具などに積極的に利用することは、木材を形作っている炭素を大気中に戻さないことになり、地球温暖化防止に寄与することになります。

地球にやさしい材料

木材は、省エネ材料です。木材と鉄やアルミニウムといった材料の製造する際の炭素放出量を比較すると、木材が圧倒的に少ないことがわかっています。

周囲の森林の状況

周囲の森林の状況

- 「天然秋田スギ」は長年にわたって伐採され、全国に供給され続けたことから、今では、残り少なくなっています。
- 一方、昭和30年代の高度成長期に盛んに植栽されたスギは、たくましい成長を続け、林齢40年前後を中心とする人工林の資源量は年々増加しています。

間伐の実施

間伐は、過密な森林を適当な密度にするために、抜き切りをする作業です。

この作業を行わないと、木が太れず、風害や雪害などの被害を受けやすくなります。また、林床が暗くなるために、下層植生がなくなり水土保全の役割を十分に発揮できなくなってしまいます。

間伐を推進していくためには、間伐材を積極的に利用して、林業の採算性を確保していくことが大切です。

最近では、封筒、名刺、飲料用の紙製缶など身近な製品にも間伐材が利用されています。

▲間伐を実施した人工林

「柾目（まさめ）」と「板目（いため）」

木の中心を通って縦に割った面を「柾目」といい、年輪が平行線となって現われます。

これとは違って、木の中心からずらして縦に割った「柾目」以外の面を、「板目」といいます。

このように木材は断面のとりかたによって様々な表情を見せます。

スギ材を薄くスライスして張り合わせたものです。木目がつまっている方が天然秋田スギです。